

第二十七回「前田純孝賞」学生短歌コンクール 入賞作品

【中・高校生の部】

【前田純孝賞】

放課後に備え寝息を立てている友の背中をなぞる数学

大阪府大阪市立咲くやこの花高等学校 二年 薬丸 涼花

【選評 佐佐木 頼綱】

薬丸さんの作品は、学校生活の何気ない一コマを作品に仕立てた一首。「数学」という名詞から立ち上がってくるイメージと、部活に真剣な生徒の寝息を対比的に出した構図がうまいですね。イメージが美しく、何気ないところから歌を見つけてくる手腕を評価しました。

舞い落ちる但馬の国の紅葉たち麒麟の舞いとどこか似ている

兵庫県新温泉町立浜坂中学校 一年 宮本 逸正

【選評 佐佐木 頼綱】

宮本さんの作品は、紅葉の動きを麒麟獅子に重ねた一首です。舞っている紅葉が赤い胴幌を、葉洩れ日が金色の顔を、風や影は一本角や逆立った耳を、ダイナミックに想像させてくれました。風土に立脚した文化を感覚的に捉えたみずみずしい一首です。

【準前田純孝賞】

ぼくは今大海原を漕いでいる潮風に乗る夢物語

宮城県岩沼市立岩沼中学校 一年 齋藤 蒼空

赤ん坊耳たぶピンク色に染め初めて触れた雪の感触

宮城県仙台市立郡山中学校 一年 草苺 なつめ

曖昧な言葉を毎日つなげてく歪んだ私を映す液晶

長野県松本蟻ヶ崎高等学校 一年 杉浦 望

全力で風切るペダル月曜日金木犀の香り横切る

大阪府大阪市立工芸高等学校 一年 松田 実莉

【選者賞】

あの人にかき抱かれた感触が湯船に溶けるまでどのくらい

東京都渋谷教育学園渋谷高等学校 三年 鈴木 深優

汗かいて袖をまくった実習も重ね着をして収穫を待つ

長野県上伊那農業高等学校 三年 野溝 えれん

君からの手紙を月にかざすとき遠い異国のさざ波を聴く

愛知県立旭丘高等学校 二年 渡邊 美愛

窓ぎわの白いキャンバス指でなぞる今日の絵の具はこの雪景色

大阪府大阪市立工芸高等学校 一年 居軒 慎哉

着なれないネクタイ結ぶ朝準備高一初の冬が始まる

沖縄県立那覇高等学校 一年 真玉橋 ひな

【新温泉町長賞】

4限終わりの薄暗がりの教室に初めて話すきみのまたたき

東京都渋谷教育学園渋谷高等学校 三年 岡 奎那

全力で花火のしづくを追いかけて橋の上まで夏の思い出

長野県中野市立南宮中学校 二年 竹本 由奈

子どもたちは色とりどりの傘を差し淋しい街に虹を架けてく

長野県松本蟻ヶ崎高等学校 一年 瀧澤 紗羽

舞台裏熱気あふれる静けさでライトが当たりする深呼吸

大阪府立寝屋川高等学校 二年 齋藤 菜名

五線譜にとじこめられた白黒の曲の具材が響く夕暮れ 大阪府立夕陽丘高等学校 一年 西田 理佐  
秋の田の稲穂干される寂寥を知らぬ者さえいることを知る 大阪府大阪市立南高等学校 三年 佐古 郁実  
風音やしきしき竹の音響きひんやり涼し木漏れ日の道 兵庫県立伊丹北高等学校 三年 小松 果穂  
飛ぶ鳥を飲み込むような白い壁日本海の風横から吹いて 兵庫県新温泉町立浜坂中学校 一年 高橋 芽依  
友人が進み続けるその先は僕は知らない君だけの道 広島県呉市立広中央中学校 三年 東 遼真  
あこがれる楽器に触れたあの時と同じ気持ちで今日も奏でる 鹿児島県薩摩川内市立川内北中学校 三年 松本 妃由

【新温泉町教育長賞】

数学の公式のない単元は種なしぶどうのような存在 東京都立小石川中等教育学校 五年 佐藤 茉奈  
正しさが自分であると荒川の対岸でふたり願いつづける 東京都立小石川中等教育学校 五年 野村 ルイナ  
休憩の十二分間ひたすらにSNSにのぞかれている 東京都立豊多摩高等学校 一年 浪花 小楨  
円周率50ケタまで言えるけど何の役にも立たなくて好き 神奈川県聖和学院高等学校 二年 望月 葉奈子  
今日もまた笑いも涙も君色の絵の具を乗せる私の画用紙 長野県松本蟻ヶ崎高等学校 一年 宮城 楓  
帰り道空がゆっくり燃えはじめ近くのビルにも燃え移りゆく 京都府同志社中学校 二年 山中 咲慧  
輪郭をなぞる光と消えそうでそつとその手に触れてしまった 大阪府大阪市立工芸高等学校 一年 横野 鈴菜

頼りない貼らないカイロ握りしめ校舎は山だ後五十段 兵庫県新温泉町立浜坂中学校 一年 松本 愛音  
目が覚めて朝の時間が動き出す秋の香りが肺を満たして 大分県竹田市立直入中学校 二年 成田 瑠香  
部活後の黒く染まった帰り道友の頭に浮かぶ三日月 鹿児島県立鹿児島工業高等学校 一年 重野 優

【神戸新聞社賞】

ローファアーのつま先で蹴るふくらんだすみれの種のはじけとぶ朝

千葉県立千葉女子高等学校 二年 鈴木 つくし

インター校一期一会に友集う世界に伸びろ我が通学路

ヨコハマインターナショナルスクール 十年 櫻井 太遥

春一番白梅の蕾ふくらみ短くなりし制服の袖 長野県松本蟻ヶ崎高等学校 一年 和田 拓海

焼きそばにソース絡めるように言う「下の名前で呼んでいいよね」

愛知県名古屋市立守山中学校 二年 水野 結雅

陽は眠る響く鐘の音合図にし黄昏色の帰路なぞり行く 大阪府大阪市立南高等 学校 三年 古谷 結愛

ドア開き落ち葉が入る店先に秋風に乗り薫るコーヒー 大阪府大阪市立工芸高等学校 一年 志摩 美実

一歩ごと腹を刺されるマラソンで私の息は白い魂 大阪府大阪市立工芸高等学校 一年 岩永 実優

宙に舞うおおきな鳥に魅せられて地を這う影を追いかけてみる

兵庫県新温泉町立夢が丘中学校 三年 谷口 陽洋

ひまわりが何を見てるか気になって見上げた先にまぶしい光

兵庫県新温泉町立浜坂中学校 二年 松岡 沙希

風にのる吹部の音楽応援にたとえてバットを握る夕方 鹿児島県立鹿児島工業高等学校 二年 日高 駿治

【佳作】

白い山青へと戻りまた白へ暖かい火が灯りはじめる 北海道俱知安農業高等学校 三年 成田 彩  
コンクール目前夏の猛特訓麦茶をひと口飲んで再開 青森県むつ市立大湊中学校 二年 井上 涼帆

完璧な満月なんて見られないアイスクリームが溶けた分だけ

青森県むつ市立大湊中学校 三年 喜多 智未  
岩手県矢巾町立矢巾中学校 三年 辻鼻 玖妃

宮城県岩沼市立岩沼中学校 一年 伊藤 康太  
宮城県仙台市立郡山中学校 一年 埴 怜奈

ざわざわと風の音響く秋の夜つめたい風が冬を呼んでる

福島県福島市立福島第二中学校 二年 須貝 志音  
東京都東京女子学院中学校・高等学校 一年 藤好 まなみ

梅雨の夜ひとり眺める最終話僕だけ見える大粒の雨 東京都早稲田大学高等学院 二年 戸田 温斗  
変わりなくただひたすらに過ぎてゆく濁った色の青春の日々 東京都早稲田大学高等学院 二年 中村 大樹

おはように続く言葉を考えるへアアイロンを温めながら 神奈川県慶應義塾湘南藤沢高等部 五年 石川 胡桃  
月食で溶け込まれていく月明かり光りて見ゆるは月の端くれ 神奈川県川崎市立枥形中学校 二年 村山 義樹

パプリカを育て調査し食べてみる努力の味が口に広がる 長野県上伊那農業高等学校 三年 前林 志穂  
ブラシがけもうできないと駆け寄って抱き締めた牛は市場に向かう 長野県上伊那農業高等学校 三年 那須野 威

リーダーの歌声響くスタジオに僕らの声も追いついてゆく 長野県松本蟻ヶ崎高等学校 一年 林 真弘  
リビングの大きな窓は映画館四季それぞれの物語あり 岐阜県加茂郡川辺町立川辺中学校 二年 神谷 祐香

静けさに心うばわれ立ちすくみシャッターを切る参道の我 静岡県静岡市立西奈中学校 二年 中山 紗月  
心地よい横切る風ととぶ景色フェリーの車輪海に泡立つ 静岡県立浜松大平台高等学校 二年 川合 喬介

電車の窓青から黒へ空の色帰路に紫のあじさいの花 静岡県静岡学園中学校 二年 島 佑玖  
真っ青な蔓日々草眺めつつ炭酸抜けたサイダーを呑む 愛知県立幸田高等学校 二年 難波 晴菜

失恋が無かったことになるのなら写真の君にまた恋をする 愛知県立豊橋西高等学校 二年 早崎 苺亜  
また明日会えるようにと約束をしないでゆこういつものように 愛知県立名古屋聾学校 二年 遠藤 駿介

向日葵に身長越えられ厚底で植物相手に張りあう私 愛知県立名古屋聾学校 三年 近藤 優衣  
木枯らしが落ち葉をさらいおどつてる冷たく月を光らせながら 愛知県立港特別支援学校 一年 大宮 陸

朝目覚め雪降り積もる景色見て寒さ感じる冬の始まり 三重県津田学園中学校・高等学校 四年 寺本 有里  
雲のよう風につつてフワフワと歳も重ねて思いもかわる 京都府立命館中学校 二年 北條 綾香

ネクタイは母が教えぬ結び方もう子供ではないと知る春 大阪府大阪市立工芸高等学校 一年 友井 歌子  
中庭で筆すべらせて描く景色垂れた絵の具と沈む太陽 大阪府大阪市立工芸高等学校 一年 下村 桃華

大雨の予報は外れ青空にゴロゴロ鳴った野良猫の喉 大阪府大阪市立工芸高等学校 一年 藤村 穂乃  
大みそか今年一年ありがとうさよなら僕の十四歳と 大阪府大阪市立長吉六反中学校 三年 澤本 達

秋の夜の光り輝く満月が雲に隠れて暗闇を生む 大阪府大阪市立南高等学校 三年 井坂 綾花  
ゆく風に吹かれて遠く空を超え今ある自分が染みる夕やけ 大阪府大阪市立南高等学校 三年 渡邊 美咲

背比べつま先ふるえる弟にいつか私の負ける日がくる  
明け方の光の破片の透き通る鏡の中の深淵を見る  
冬の川光の波を束ねいて心齋橋は月を追いける

大阪府堺市立上野芝中学校 二年 中田 千歳  
大阪府立今宮工科高等学校 二年 阿野 夢叶  
大阪府立摂津高等学校 三年 甲斐 義隆

秋風がつかれた体にふきかかりふと見た空の色の濃淡  
ねころんだ君の口へとキスせがむ断固拒否する爪と肉球  
変わらない電車の景色今日もまた本と向き合い今日が始まる  
アイマイミー波に溶かされ曖昧に君の香りもいつかは溶けて

大阪府立寝屋川高等学校 二年 今井 柚希  
大阪府立港南造形高等学校 三年 古川 華蓮  
大阪府立夕陽丘高等学校 二年 永江 実夢  
大阪府大阪星光学院中学校 二年 谷澤 周良

うたづくり静かに考え取るメモのかすかな音がひびく教室

兵庫県猪名川町立六瀬中学校 二年 三宅 蓮

過ぎてゆく時間の中でまたひとつ振り返らずにどンドン進め

兵庫県香美町立香任第一中学校 二年 高橋 由幸

朝焼けにせみのさえざる白浜に美しい日の朝をむかえる

兵庫県神戸市立神港橋高等学校 三年 御田 祐貴

夕立ちの止みて残りし水たまりゆらぐ太陽踏み急ぎぬ

兵庫県神戸市立長坂中学校 二年 三ツ山 彩羽

授業中眠気を誘う波音と人の寝息の音が重なる

兵庫県神戸市立六甲アイランド高等学校 二年 大西 璃子

十五夜の我を見つめるその灯り君のようだと黒を照らした  
忘れものとりにもどつて窓のぞく夕日の色に染まる教室  
右に避け左に避けても前にいるどうやら君とは気が合うらしい

兵庫県三田市立長坂中学校 二年 松浦 結菜  
兵庫県三田市立狭間中学校 二年 沖島 彩椰  
兵庫県新温泉町立浜坂中学校 三年 伊賀 陽愛

あと十歩走ればゴールの瞬間で後ろに聞こえた奴の足音

兵庫県宝塚市立安倉中学校 二年 高谷 康輔

快晴と青タータンの競技場一際目立つ赤いスパイク  
いちようの葉ひらりひらりと君の肩手をのばしてはまたためらつて

兵庫県丹波篠山市立丹南中学校 二年 酒井 蓮斗

京の秋山の葉少し色づきて夕暮れ時には皆赤くなる

兵庫県豊岡市立竹野中学校 二年 福田 基輝

閉めても窓から入るセミの声を過ぎれば鈴虫の声

兵庫県立伊丹北高等学校 三年 井口 月

紅葉降る電車の外に秋の空オレンジ色に染まる横顔  
太陽と黄金色の向日葵が向かい合わせて寝転んでいる

兵庫県神戸山手女子中学校 二年 近藤 かりん

眺ざしと響く音色に魅せられて今日も私はラケットを手に  
雪だるま昼の暑さでとけてゆくちよつと切ない冬の終わり

兵庫県武庫川女子大学附属中学校 二年 椎原 万陽  
鳥取県立八頭高等学校 一年 平尾 咲弥子

秋の夜を照らすは君のつきあかり我が心にも光満ちゆく  
夏至の日の夕暮れの陽に包まれてあなたと顔が近くなりゆく

岡山県玉野市立玉野商工高等学校 二年 長尾 侑愛  
広島県呉市立広中央中学校 三年 大畠 璃子

笑い合い走りぬけゆく子どもらは通学路さえ冒険となる

山口県周南市立富田中学校 二年 磯部 煉

前半のたった三分だけがをして悔しだけの引退試合

山口県立防府西高等学校 三年 皆木 彩那

黒髪を流せて今朝は物思い昨日の貴方もういないから

徳島県阿南第一中学校 二年 原田 柚希

木漏れ日の緑と白のパノラマはいつしか赤く色を変えゆく

徳島県立阿波高等学校 二年 高橋 聖花

モフモフのカワイイウサギにニンジンあげたら食べるしあわせなゆめ

福岡県川崎町立川崎中学校 二年 坂下 夕菜

福岡県川崎町立川崎中学校 二年 小松 龍聖

投げこみにインターバルにバッティングのども凍えた冬の日のこと

大分県白杵市立野津中学校 二年 山田 瑛太

紅の葉っぱを見つめ考える今年の秋は何をしようか

大分県竹田市立直入中学校 二年 吉野 智咲

少しずつ空との距離が近くなる自分はどこへはばたけるのか

宮崎県立日南高等学校 二年 川端 真奈

「ありがとう」言えず代わりに「これ食べる？」ケーキ差し出す母の日の夜

鹿児島県鹿児島第一高等学校 二年 横村 友莉菜

海面にオレンジ色の滑走路飛んで行きたい夕日の中へ

鹿児島県薩摩川内市立川内北中学校 三年 小村 愛莉

笑顔咲くクラスメイトの青春の時間切り抜くシャッターの音

鹿児島県立鹿児島工業高等学校 二年 松元 晴一

ありがとう感謝の気持ちで挑む夏誰かのためにこのバット振る

鹿児島県立鹿児島工業高等学校 二年 和才 健人

夏服と冬服交じる教室の一週間のちぐはぐもよう

沖縄県立那覇高等学校 一年 古波蔵 かすみ